

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価結果

達成度(評価)  
 A: 十分達成できている  
 B: おおむね達成できている  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

学校名	唐津市立鬼塚中学校
1 前年度評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導上の課題があり、学習規律・ルールの定着が不十分であったため、1人1台端末の活用については課題が残った。来年度は「唐津の学びスタイル」の「期待感」「存在感」「効力感」「充実感」を感じさせる取り組みを意図し、単元ごとの計画・評価について校内研修を行い、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める必要がある。</li> <li>生徒指導の課題やいじめ問題への対応として、全職員が「チーム鬼塚」として組織的に対応することができた。今後は、未然に防止するための開発的な生徒指導や、集団づくり・仲間づくりの取り組みをさらに充実させていきたい。</li> <li>不登校対策として、校内の連携、各種専門家・外部機関との連携をとりながら取り組むことができた。しかし、不登校生徒数は増加しており、原因が分かりづらいなど困難な事例が増えているため、教育相談体制を見直し、取り組みの改善が必要である。</li> </ul>

2 学校教育目標	『感動 感謝 思いやり』 ～ 関わり合い、支え合い、認め合う学校づくりをとおして ～
----------	---

3 本年度の重点目標	① 知: 「関わり合い、支え合い、認め合う」活動を重視することで、子どもが「唐津の学びスタイル」の「期待感」「存在感」「効力感」「充実感」を感じながら学ぶ場を増やし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 ② 徳: 「関わり合い、支え合い、認め合う」活動や開発的な生徒指導(発達支持的生徒指導)を全職員で取り組むことで、子どもの豊かな心を育み、人間関係づくりを充実させ、生徒間トラブルを減少させる。 ③ 体: 「関わり合い、支え合い、認め合う」活動の中で、健康教育・安全教育を行う。また、教育相談体制を充実させる。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践により、生徒が主体的に学習に取り組める授業を展開、ICTの活用を行い、振り返り、4つの感の特に、「充実感」を感じることを増やす。	・生徒アンケートで、「単元のゴールを意識して、一時間毎の授業に意図的に取り組んでいる」の問いに、肯定的な回答の生徒の割合 <b>80%</b> 以上。 ・生徒アンケートで、「目標をもって家庭学習に取り組んでいる」の問いに、肯定的な回答の生徒の割合 <b>70%</b> 以上。	・生徒が目標をもって授業に取り組めるよう、単元のゴールを明確に示し、そのゴールに向けて1時間の授業のまとめや振り返りの充実を図り、自己の学習状況の把握を促す。 ・授業の振り返りや生徒の実態に応じた家庭学習の充実を通して、基礎・基本の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員参加型の研修会を計画通り実施し、本校の教育目標を具現化するため、生徒の学力向上に向け充実した協議を重ねることができた。また、3部会の代表者による授業研究会を実施し、手立てを工夫することにより生徒の学習態度、学習意欲に大きな実感が見られた。</li> <li>各教科で、学習シート(単元計画、単元のゴール、振り返り)に工夫をしながら活用することができた。また、生徒の<b>82%</b>が「単元のゴールを意識して、授業に意図的に取り組むことができた。」の問いに肯定的な回答をした。</li> <li>生徒の<b>73%</b>が「目標をもって家庭学習に取り組んでいる」の問いに、肯定的な回答をした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生は受験があるため保護者、生徒ともに達成できている回答が多く良い傾向と思う。</li> <li>学習で「わかる」「楽しい」との思いを子どもたちに感じてもらいたい。また、そのための指導・支援をお願いしたい。</li> </ul>
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価の保護者および生徒アンケート「感謝と思いやりの気持ち」を育てる指導を行っている」の達成率をそれぞれ <b>80%</b> 以上	・人権・同和教育を根幹におき、道徳教育や特別活動を充実させ、仲間づくりを推進し、豊かな心を育む教育を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートで、生徒の<b>92%</b>が、「いじめなど人の嫌がることはせず感謝の気持ちをもって生活しようとしている」の問いに肯定的な回答をした。</li> <li>12月の人権週間に入権コンサートを開催。アンケートで良かったと答えた生徒<b>100%</b>であった。</li> <li>12月に「いじめ防止標語」に全校で取り組み、いじめ防止に努めた。</li> <li>担当学年の教職員で順番に道徳の授業を行う活動を1年間を通して行った。</li> <li>生徒が様々な教師の考えを知ること、豊かな心を身に付ける機会とすることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍以降で仲間づくりができたように感じる。</li> <li>多くの生徒に学校の取組が伝わっていると感じる。</li> <li>豊かな心を身に付ける教育を継続し、子どもの心の成長をお願いしたい。</li> </ul>
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的に対応ができていないと回答した教員 <b>90%</b> 以上	・日常の生徒観察や教育相談アンケート(こころのとびら)を年10回実施する。生徒指導部会と教育相談部会連携し、SCやSSW、SSF、外部機関などとの連携強化を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的に対応ができていないと回答した教員<b>100%</b>であった。</li> <li>日常の生徒観察や教育相談アンケート(こころのとびら)を年10回実施した。</li> <li>毎週、生徒指導部会、教育相談部会を開き、SCやSSW、SSF、外部機関などとの連携を図りながらいじめの早期発見、早期対応、不登校や問題を抱える生徒への対応を組織的に行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止等について組織的に対応ができていないと回答した教員も100%の回答であったことを裏付けるように生徒の回答もよい回答となっている。引き続き取り組みを継続していただきたい。</li> </ul>
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒 <b>80%</b> 以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒 <b>80%</b> 以上	・学校教育活動の中で、生徒に役割・出番・承認の場を増やす。 ・キャリア・パスポートの活用により、生徒の良さと成長を積極的に見とり、認める場をつくる。 ・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生では、生徒主導による学年集会を定期的に開催し、司会のみならず集会の内容そのものを生徒自らが考え、周囲と協力し、成し遂げるこの大切さを学んだ。同時に、生徒の出番、承認の場として自己肯定感を高める機会に学んだ。さらに、キャリア教育の一環として「ドリームボード」も実施することで、将来の夢実現に向け考える契機となった。</li> <li>2年生では、職場体験で学んだことを、各自レポート用紙にまとめ将来の夢や目標の選択肢の一つになった。また、12月に行った学年集会では生徒が主体となり紙芝居を通して、人との繋がりの大切さや誰かの喜びや感謝が、自分の喜びにもつながることを学んだ。</li> <li>3年生では各行事ごとに多くの生徒に出番を与え、責任をもって行わせることで、自己存在感、自己達成感をもたせることができた。また自らの夢を真剣に考え、進路の実現に向けて意欲的に学んできた。</li> <li>生徒アンケートでは、<b>88%</b>の生徒が、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに肯定的な回答をした。また、<b>75%</b>の生徒が「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業式の生徒会司会について、学校からの説明やその取り組みがとてもよいと思う。このような生徒の活動の場をつくり、生徒が一生懸命に取り組む場を、認められることを通じて、生徒の自己肯定感や自主性が育つと思う。これらの取組を継続していただきたい。その地道な積み重ねが大切だと思う。</li> </ul>
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒 <b>80%</b> 以上	・毎日の給食時の放送で、食に関する様々なトピックスを紹介する。 ・毎月、残菜チェックを行い、生徒会保健部で残菜0の呼びかけを行う。 ・保健だよりを発行する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な指導を心がけ、学級での指導、生徒会保健部の活動、教科での指導を行った。また、セルフチェック週間を設けるなどして、家庭での実践についても促すことができた。</li> <li>生徒会保健部の残菜0を目指す活動においては、1カ月間の残菜量を学級別に発表し、残菜を減らそうとする意識を高めることができた。給食センターの4月から12月間の食べ残し記録について、昨年度は一人当たりの食べ残し量が平均約33gに対し、今年度は約15gと大幅に減少していた。また、生徒アンケートでは、<b>86%</b>の生徒が「健康に良い食事をしていますか」の問いに肯定的な回答をした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度より今年度の残菜量が減ったことについては取組の効果が表れていると感じる。しかし、昔ながらの食事や郷土料理、季節料理を食べる機会が減ってきていると感じる。また、家庭での個食が増えている。食と健康についてやフードロスの学習を進め、郷土料理などを食べるような指導をお願いしたい。また、学校と家庭で連携して食育を進めてほしい。</li> <li>食と気持ちの安定はつながりがあると考えるので、食育を大切にしていきたい。</li> </ul>
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○「交通安全や防災を意識して生活している」生徒 <b>80%</b> 以上	・学校安全計画に基づき、各教科、領域等による安全教育を計画的に推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画していた防災、避難訓練等はすべて計画通り実施した。生徒アンケートでは<b>95%</b>の生徒が「健康・安全に努めていますか」の問いに、肯定的な回答をした。しかし、生徒による駐輪場での自転車盗難事件や校内の消火器が意図的に噴射された、ピンが抜かれたりといった校内の安全が脅かされる事故が発生したため、引き続き指導を行って、安全に過ごせる学校を目指したい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だけでは難しいので、家庭でも子どもとともに考えていけたらと思う。</li> <li>校内で自転車盗難や消火器についての事例があったことは残念だが、この項目については、保護者、生徒ともに良い回答になっている。特に生徒の回答がよいのは喜ばしいことと思う。</li> </ul>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日や部活動休業日の設定、部活動ガイドラインに沿った部活動運営を行った。また、成績を3期制を2期制への移行、定期テスト期間中の業務をする時間を確保するための時間割の工夫を行った。職員アンケートでは、<b>79%</b>の職員が時間外在校時間の上限を守ることを意識し、業務改善に努めたことができた。約53%の職員が月当たり45時間以上超過している。データの蓄積・共有を推進し、業務の効率化が必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動などのため、色々な改革をすることの大変さを感じる。</li> <li>定時退勤日の設定や部活動ガイドラインに沿って部活動を行ったことで、業務改善や働き方改革は確実に進んでいる。45時間以上超過の改善はなかなか難しいと思う。</li> </ul>
	○事務システムポータル及び校務システムの有効活用	○校務システムを毎日2回チェックする職員 <b>100%</b>	・業務上の資料配布や事務的な連絡事項をシステム上で行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>Teamsを1日に2回以上チェックする職員が<b>98%</b>であり、業務上の連絡を効率的にできるようになっている。また、職員の担当業務については校務システムを活用することにより効率化している。今後、職員相互に声かけを行い、有効性を実感しながら、ペーパーレスなど業務のDX化を図っていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務システムを毎日2回以上チェックすることができていて、業務改善や働き方改革が進んでいると思う。</li> </ul>

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○不登校対策	○教育相談運営体制の充実と不登校生徒への支援拡大	○昨年度より不登校生徒数を減少させることを目標とする。本項目は数値目標はそぐわない面もあるため、不登校対策委員会にて相互に質的評価を行う。	・SC、SSW、SSF等外部機関との連携を強化する。 ・ケース会議を工夫し有効な支援策を探る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校対策について、98%の職員が外部機関と連携し組織的に対応することができた。また、必要に応じてSCにつないだりすることができた。</li> <li>隔週で教育相談部会を行い、各学年の気になる生徒について情報を共有し、会議の中で具体的な支援について検討したり、必要に応じてSCにつないだりすることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関と連携したり、校内で教育相談部会を行ったりとしっかりと取り組まれていることは評価できると思う。良い結果につながるようこれからもがんばっていただきたい。</li> </ul>
○信頼される教職員としての意識向上	○教職員として高い倫理感と規範意識の向上	○組織の一員であることの自覚と日常におけるコンプライアンス意識を強化するとともに、服務規律堅持100%を目指す	・職員会議などにおいて服務規律における指導を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議の場において服務規律について確認した。</li> <li>夏季休業中に西部教育事務所より講師を招き研修会を行い、服務規律について理解を深めた。</li> <li>教育委員会などからの不祥事案について共有をはかり、不祥事防止に努めている。</li> <li>学校評価アンケートでは、95.8%の職員が、学校職員であることを自覚し、コンプライアンスを意識し、服務保持に努めたと回答した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動や朝のあいさつで生徒と教職員の交流が進められてきた。</li> <li>研修会を行ったり、不祥事案の防止に努めたり、コンプライアンスを意識しての服務保持に努められているのは評価されてよいと思う。</li> </ul>
○地域に開かれた学校づくり	○地域・保護者と連携した開かれた学校づくり	○学校評価アンケートで、地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる <b>70%</b> 以上を目指す。	・青少年会をはじめ、地域と連携した活動を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートで職員の<b>96%</b>が地域・保護者と連携し、講演会や防犯パトロールに取り組めた。また、保護者の<b>85%</b>が学校は地域連携を行い開かれた学校づくりを進めていると回答した。</li> <li>2年生での職業講話、保健体育の救命救命、3年生での平和講話・人権講話、避難訓練など、地域の方・警察署・消防署の方を講師に招き、学習を行った。</li> <li>青少年会と連携して、グラウンドの美化活動や体育大会の運営などを行い、教育活動をより充実したものと努めた。</li> <li>防犯パトロールを地域の方と共にい、地域と連携した教育活動に努めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「夜のパトロール」では、教職員でローテーションをつくり、参加されて地域とともに活動することが良いと思う。</li> <li>保護者が地域に開かれた学校づくりに取り組んでいると回答している(81%)ことは評価できると思う。</li> <li>地域に学校で起こったことを知らせたり、授業を公開していることが良いと思う。</li> <li>青少年会の活動を活性化させてはどうだろうか。</li> <li>地域を巻き込む仕掛けをお願いしたい。</li> </ul>

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の向上については、単元計画の活用を進め、生徒が見通しをもった学習ができるよう取り組みを進めることができた。また、一人一台タブレット端末の利用も昨年度と比較して活用する回数が増えた。しかし、まだ十分ではないので、今後も取り組みを進める必要がある。また、家庭学習習慣の定着に課題があり、生徒の学びを推進取り組みが必要である。</li> <li>今年度は、夢や目標をもたせる取り組みを増やすことができた。しかし、十分な成果が表れていないので、さらに取組を進めていき、学習に結びつけることが必要である。</li> <li>生徒指導の課題やいじめ問題の対応に、各学年や部会、SCやSSWと連携し、「チーム鬼塚」として組織的に対応することができた。また、卒業式の生徒会司会など、積極的に生徒の出番・役割・承認の場を設定することで、生徒の自己肯定感を高める取組を行い、発達支持的生徒指導を進めることができた。しかし、規範意識の低さが課題であり、ルールやきまりについて考える取組や、人間関係作りや人の接し方を学習などをさらに進めるとともに、様々な場面で出番・役割・承認の場面を設定と個別の指導・支援を丁寧に行っていくことが必要である。</li> </ul>
----------------	---